

	1. 目的の設定			2. データに意味づけを行う					3. 目的に合った記述方法を決めて実装する				4. データを公開・運用する			
	1	2.1	2.2	2.3	2.4	2.5	2.6	2.7	3.1	3.2	3.3	3.4	4.1	4.2	4.3	4.4
補足資料の関連ページ	3、9	4-5	4-7		7-8	6	6		3、9							10-11
手順分類	●	○	○	○	△	△	○	△	●	△	○	△	●	○	○	△
テンプレートを利用する	●	△							●	△	○	△	●	○	○	△
実施例	単一の市役所による既存データ公開 既存公開データをリストアップ。	対象データセットごとに、各データ項目の記載内容を定義した。一部を集計表は、1行に1レコードを記載するようデータ構造を見直した。	IMIコア語彙と対応するデータ項目を抽出し、IMIコア語彙の該当する用語を記載した。		IMIコア語彙で足りない項目について、ex:の用語語彙(ローカル定義)を設定。				既存公開データリストをもとに、公開/非公開の種別を作成。公開データセットに対しては各データ項目の定義を整理した。	既存のxlsに加え、IMIコア語彙との互換性が高いデータセットを対象にXML化するとした。	既存公開データセットを利用したため、データレコードの入力は行っていない。	28データセットについて、表からデータモデルを使い、XMLデータセットを作成した。	表からデータモデルで変換したXMLデータセットを公開した。	公開の案内ページに掲載した。		
実施例	広域の自治体連携によるデータ公開 ワーキンググループを通じて企業等の利用ニーズをふまえたデータセットを選定。更新が困難などの理由から、いくつかのデータセットは公開を見送った。	利用目的に合ったデータ項目を検討。	IMIコア語彙と対応するデータ項目を抽出し、IMIコア語彙の該当する用語を記載した。	各自治体がデータを作成、提出可能かどうか確認。収集しづらいデータ項目定義を調整したり、データ項目数を削減した。	IMIコア語彙で足りない項目について、ex:の用語語彙(ローカル定義)を設定。			幹事自治体にて識別子を定義。	データセットごとにデータ項目定義書を作成、公開。	各参加自治体からはcsvまたはxls、xlsxでデータを収集し、幹事自治体にてxml化することとした。データカタログとデータセット定義を文書化し、参加自治体へ配布した。	3.1で配布された文書に基づき、各参加自治体が入力フォーマットでデータセットを作成。全データセットの統合と2.6識別子の付与は、別途幹事自治体にて実施した。	3.3の統合データをもとに、幹事自治体にてXMLへのデータ変換を行った。	各参加自治体で直接オープンデータサイトへデータセットを登録。幹事自治体で共通フォーマット及び全自治体統合版データのRDFを公開した。	データセット公開案内ページに掲載。報道発表実施。	3.3で識別子を付与したデータセットを各参加自治体に提供。更新ファイルは各参加自治体で直接オープンデータサイトへ登録している。	データ項目定義書と公開データセット一覧を公開。後日参加自治体等の意見をふまえてデータ項目定義書を改版。
実施例	推奨フォーマットを利用したデータ公開 政府推奨フォーマットのうち、6つのデータセットを選択。									xlsまたはcsvとした。	既存データセットにないデータ項目について、原課でレコードを追加した。		公式ホームページ上にオープンデータコーナーを作成し、データセットを公開した。	お知らせページにデータ公開の案内に掲載。		
実施内容	目標を明確にしたうえ、必要なデータセットを選択する	公開対象とするデータ項目とデータ構造を整理する	公開するデータセットに使うデータ項目と記載内容を整理する	データ項目が適切に検証する	用語語彙(独自の語彙)を定義する(任意)	コードやIDを整備する(使用する場合)	データレコードに付与する一意の番号や文字列などの識別子を定義する	データ項目定義書を作成する	公開するファイル形式や公開場所などを決める	データモデル記述を作成する(任意)	データレコードを入力する必要に応じてレコードを追加/削除する	データを交換する(任意)	データを公開する	データ公開について告知する	データを運用する	データ項目定義書やデータモデル記述を公開する
インプット	既存データセット(公共施設一覧、保育園・幼稚園一覧など)(既存データセットがある場合)	既存データセット(公共施設一覧など)のデータ項目(住所、利用時間など)(既存データセットがある場合)	データセットごとの検討が必要なデータ項目の一覧	既存公開データ(公共施設一覧、保育園・幼稚園一覧など)	コア語彙で表現できない項目の一覧	部署コード、施設種別コード、職員IDなど	レコードごとの識別子		データセット定義	データ項目定義書	データ項目定義書 データ入力フォーマット 入力対象データ(既存データセットなど)	公開データセット(Excel、csv) データモデル記述	公開データセット一式		更新レコード ユーザーからのコメント等	データ項目定義書 データモデル記述
外部参照資料・ツール等	開示請求の数、ウェブサイトのアクセスログなどの利用者ニーズ 原課の対応可否 他団体のデータセット	IMIコア語彙 国等が提供するフォーマット	IMIコア語彙	IMIサイトの公開ドラフト(PD)		全国地方公共団体コードなど	施設番号、制度番号など			データモデル記述仕様 表からデータモデル		表からデータモデル データモデル記述仕様				IMIサイト 表からデータモデル
作業内容の解説	想定されるデータ利用者、利用シーンを明確にする。推奨データセットなどを参考に、目的に合ったデータセットを検討する。ニーズが高く、データを揃えやすいデータセットから着手することが望ましい。公開対象とするデータセットの名称、概要、目的などを一覧表にとりまとめる。(データセット定義)	既存データセットで使っているデータ項目を洗い出し、目的に合ったデータ項目かどうか確認する。過不足があればデータ項目を再検討する。構造が複雑なデータセットの場合は、機械判読性を確保するためのデータ構造の整理を検討する。	データ項目ごとに、ラベル(項目名)、記載内容(記載例)、データ型、必須/任意の種別などを定義する。「連絡先」といった項目を「名称」「住所」「電話番号」等に分割する必要がないか検討する。「施設」項目の施設種別など、データ項目に階層が含まれる場合は、構造を整理する。(データ項目定義) IMIコア語彙を参照し、コア語彙の用語を適用できるデータ項目があれば、当該の用語を記載する。	2.2で作成した各データ項目を列見出しとして、1行1レコードになるように、いくつかデータを入れてみる。項目数が多い、記載方法を判断しづらいといった場合は、2.2のデータ項目定義を再検討する。 IMIサイトの公開ドラフトなどを参照し、流用できないか検討する。IMIコア語彙やPDの既存語彙で表現できないデータ項目と項目の利用目的を書き出す。	既存語彙で表現できない独自の語彙について、用語語彙としてコア語彙と同様にラベル(項目名)、記載内容、データ型、データ構造、必須/任意の種別などを定義する。	コードやIDの識別子とラベルを対応させたリストを整備する。	既存の識別子がある場合は活用する。ない場合は、将来にわたって変わることのない一意の番号や文字列を検討し、識別子のルールとして定義する。	項目名、値の範囲、書式、使用するコード・ID体系、記載例を整理し、データ項目定義書にまとめる。データ項目定義書に従い、データ入力に使うデータフォーマットを作成する。データを保有する原課が、入力可能な定義とする。	データセット定義をもとに、データセットごとに、1.の目的に合致するファイル形式(*.csv、*.xlsx、*.xls、*.ttl、*.xmlなど)を決める。 公開対象データセットを一覧に整理する(公開フォーマットを一覧)。大分類や目的、ファイル形式、公開日、更新頻度などを記述することが望ましい。	外部アプリケーション等からデータ構造の文脈を把握できるよう、データ項目定義書に従い、データモデル記述(Data Model Description: DMD)を作成することが望ましい。必要に応じて表からデータモデルのDMDに登録する。	データ項目定義書に従ってデータ入力フォーマットにレコードを入力する。2.6で定義した識別子をデータに付与する。 初期段階では、各レコードの完全性よりも、データレコード数を重視することが望ましい。	3.3で作成したExcel、CSVデータをXMLやRDFなど機械判読可能な形式に変換する。 独自で作成した用語語彙については、データ公開サーバ等に名前空間(namespace)を定義したファイルを格納する。	オープンデータサイト等に、公開データセット一式を公開する。 バックを呼びかけ、改善を取り入れることが望ましい。	データ公開について公式ホームページ等で告知する。可能であればパブリックコメントなどのフィードバックを呼びかけ、改善を取り入れることが望ましい。	データにレコードの追加、削除、変更等が生じた場合は、該当データセットのメンテナンスを行う。 ユーザーのコメント等をふまえて、データ項目やデータ構造の見直しを行うことが望ましい。	データ項目定義書を公開し、相互運用性向上の可能性などを検討する。
アウトプット	データセット定義	データセットごとの検討が必要なデータ項目の一覧	各データセットのデータ項目・データ構造、IMIコア語彙との対応一覧	検証済データセット 既存語彙で表現できない項目の一覧	用語語彙の定義一覧	コードやID体系ごとのリスト(ラベルと識別子など)	識別子の定義	データ項目定義書(各データセットのデータ項目・データ構造定義、既存語彙との対応及び用語語彙、コード・ID体系との対応) データ入力フォーマット	データセットごとの公開ファイル形式	データモデル記述	公開データセット(Excel、CSV)	公開データセット(XML、RDF) データモデル記述	オープンデータサイト 用語語彙の名前空間定義	オープンデータサイト ホームページなど	オープンデータサイト	オープンデータサイト IMIサイト
作業対象データ	既存保有データ	データ項目やデータ構造が目的と合っているか確認									必要に応じデータ入力フォーマットに合わせて内容を調整					
作業対象データ	公開データ(Excel、csv)							データ項目定義とデータフォーマット決定	公開ファイル形式を決定		既存保有データ等からデータレコードをコピー追加データを入力レコードに識別子を付与					
作業対象データ	公開データ(RDF、XMLなど)								公開ファイル形式を決定			公開データセット(Excel、csv)のデータを変換				
検討する要素	データセット定義、データカタログの要素 名称 概要 目的 など								データカタログ(公開データセット一覧) 名称 概要 目的 ファイル形式 公開場所 更新予定、版など	データモデル記述						
検討する要素	データ項目定義書の要素	データ項目	データ項目定義 ラベル(項目名) 記載内容(記載例) データ型 データ構造 必須/推奨の種別 IMIコア語彙との対応	データ項目定義 ラベル(項目名) 記載内容(記載例) データ型 データ構造 必須/推奨の種別 IMIコア語彙との対応	データ項目定義 ラベル(項目名) 記載内容(記載例) データ型 データ構造 必須/推奨の種別 IMIコア語彙との対応 用語語彙	データ項目定義 ラベル(項目名) 記載内容(記載例) データ型 データ構造 必須/推奨の種別 IMIコア語彙との対応 コード・ID	データ項目定義 ラベル(項目名) 記載内容(記載例) データ型 データ構造 必須/推奨の種別 IMIコア語彙との対応 用語語彙 コード・ID レコードの識別子	データ項目定義 ラベル(項目名) 記載内容(記載例) データ型 データ構造 必須/推奨の種別 IMIコア語彙との対応 用語語彙 コード・ID レコードの識別子 データ入力フォーマット								
データ構造例	IMIコア語彙のデータ構造例	施設	施設_住所_表記	施設_住所_表記	施設_住所_表記	施設_住所_表記	施設_住所_表記	施設_住所_表記	施設_住所_表記	施設_住所_表記	施設_住所_表記	ic:施設>ic:住所>ic:表記				
データ構造例	用語語彙のデータ構造例				ご当地キャラ_モチーフ	ご当地キャラ_モチーフ	ご当地キャラ_モチーフ	ご当地キャラ_モチーフ	ご当地キャラ_モチーフ	ご当地キャラ_モチーフ	ご当地キャラ_モチーフ	ex:ご当地キャラ>ex:モチーフ	用語語彙の名前空間をオープンデータサイトに定義			